

## 資 料

## 市町村史に見る北海道の演劇活動の記録

—道東・道北編—

高橋 克依

本資料は、第二次世界大戦前までの北海道における演劇活動の記録を、各市町村史の中に求めたものである。各地の農民たちによって始められた地芝居や、劇場の開設および公演の記録などを調査の対象とし、どの程度の内容で記述されているかを、それぞれ簡潔に記した。

北海道において、戦前の演劇活動の研究はほとんど未着手の状態であると言ってよい。そこで、まず、どこにどのような活動があっ

たのか、それが、現在にどのように伝えられているのかを集約することから始めることとした。今回は留萌、宗谷、上川、網走、十勝、釧路、根室の各支庁内の活動を、平成十七年以降の大幅な市町村合併以前の市町村名ごとにまとめた。なお、全く記載のない場合ばかりでなく、資料的価値が少ないと判断されるような一、二行程度の記載については「記録なし」としたが、今後、調査の進展に従い、さらに追記してゆくつもりである。

○留萌支庁	
留萌市	「新留萌市史」(H15) 1097-1099：・明治36年、亀本初太郎により南山手通りに「亀本座」が開設され、田舎芝居が演じられる。明治40年、宮田兼造により南大通りに「遊楽館」開設。明治44年、小坂藤蔵が南山手通りに「留萌座」開設など。
増毛町	記録なし
小平町	記録なし
苫前町	記録なし
羽幌町	記録なし
初山別村	「初山別村史」(S47) 787-789：・明治末から大正期にかけて青年団の演劇活動があり、収入は青年団の基金造成は災害義援金として使われたことなど。証言等引用。
遠別町	「遠別町史」(S32) 488-490：・明治35～36年頃、農閑期を利用し、同好者を集め、市街や天塩港まで出かけて演じていたこと（三河漫才を元祖とすると言及）。・大正末～昭和初期にかけ、市街の劇場や、通称倶楽部において、青年たちによって新派劇は歌舞伎芝居が上演されていたことなど。702：・大正5～6年ごろ、個人の倉庫を劇場がわりに使っていたという人々の記憶。その後つくられた、消防組の集合所をかねて利用された倶楽部について。・昭和10年、映写機や舞台装置が完備された遠別劇場がつけられたこと。

キーワード：北海道、演劇、地芝居、地方劇場、地域研究

天塩町	「新編 天塩町史」(H5) 661-664：・明治34～35年ごろに芝居小屋があったこと。・明治43年の大火後、天塩座が開設。また大正期に栄楽館、弁天座が開設。・旅回りの一座ばかりでなく、芸妓連の歌舞伎も好評であったこと。またその後、青年団の素人芝居が上演されたことなど。引用資料多数。659：・祭りにおける芝居の上演について。
幌延町	記録なし

○宗谷支庁	
稚内市	「稚内市史」(S43) 1189-1191：・明治43年に開設された遊鶴亭をはじめ、稚内座、北見座、大正座、稚内劇場、共楽館、稚都勢座などについて。落語、手踊り、幻灯、義太夫、茶番狂言、素人芝居、活動写真、浪花節などが演じられたことなど。「北光新聞」記事の引用等あり。その他、開声座、大和座、沼川座など。
猿払村	記録なし
浜頓別町	「浜頓別町史」(H7) 877-878：・大正期の地図から金花座や頓別劇場などを読み取る。・大正8年6月の「北海タイムス」から「劇場北盛座焼失」の記事の紹介。
中頓別町	記録なし
枝幸町	記録なし
歌登町 (H18.3.20 枝幸町へ)	「歌登町史」(S55) 1079-1080：・昭和5年に建設され、映画や芝居の常設館となった幌別座(歌登劇場)について。・部落の青年男女による素人演劇、旅回り劇団を招いたこと。
豊富町	記録なし
礼文町	記録なし
利尻町	記録なし
利尻富士町	記録なし

○上川支庁	
旭川市	「旭川市史 第三巻」(S34) 735：・大正11年、文化協会が設立され、翌年第一回試演がおこなわれたこと。765-766：・明治22～23年ごろから芝居小屋ができたはじめ、旅芸人が演じたり、四国出身の屯田兵たちによる人形芝居がかかったこと。また、同30年に上川座や永山亭が開設されたこと。回り舞台付きの佐々木座、東亭、共盛館、神田館、演芸座、第一神田館、八千代館、裕徳座、公園館などの開設記録など。 「新旭川市史 第二巻」(H14) 831-834：・最初の芝居小屋と思われる報道記事(明治28年5月25日付、29年12月19日付)の「北海道毎日新聞」などを引用。・明治31年8月発行の「上川案内」、33年5月発行の「旭川一覽」等から上川座の記述を引用。・明治32年9月に開設された寄席東亭についての、明治32年10月5日付「北海道毎日新聞」などの記事。・明治20～30年代の興行演目一覽。 「新旭川市史 第三巻」(H18) 651-655：・旭川町時代の劇場・寄席として、佐々広亭(常盤亭を改称)、入○亭(入丸亭)、旭亭、入メ亭、市場亭、上川亭、祐徳座、大国座、恵比寿座などの開設の事情を、新聞記事を引用して紹介。700-703：旅役者乾咲次郎について。1290-1292：旭川区時代の佐々木座と松島座の事情について、新聞記事を用いて紹介。

市町村史に見る北海道の演劇活動の記録

士別市	記録なし
朝日町 (H17.9.1 士別市へ)	記録なし
名寄市	記録なし
風連町 (H18.3.27 名寄市へ)	「風連町史」(S42) 664-665：・大正の初期に小さな劇場が建てられたこと。 ・青年団の演劇部によって芝居が演じられていたことなど。
富良野市	「富良野市史 第二巻」(S44) 470-472：・明治36年に開設された金崎芝居小屋ほか、富良野館、常盤劇場などについて。
鷹栖町	記録なし
東神楽町	「東神楽町史」(S48) 769：・明治34年ごろ、市街地の小屋で青年たちが浄瑠璃芝居をはじめたこと。芝居、踊り、演芸に長じていた飲食店・旅館経営者の近藤久平が中村紅雀と名のり、青年男女に踊りを教え、村内や付近町村で披露していたことなど。 「東神楽町百年史」(H6) 586：・前書とほぼ同じ内容。
当麻町	「当麻町史」(S50) 1123-1124：・大正中期から青年グループによる芝居が地神祭等で上演されるようになったこと。団費造成、楽器購入資金造成、陸軍病院慰問等の目的があったことなど。前当麻劇場主による証言あり。
比布町	記録なし
愛別町	記録なし
上川町	「上川町史」(S41) 1056：・明治44年、仮設の芝居小屋が開設され、旅回りの芝居や浪花節、素人芝居などに利用されたことなど。
東川町	記録なし
美瑛町	「美瑛町史」(S32) 529-530：・明治40年ごろ、個人が市街地に小劇場を開設し、年3～4回、地方回りの活動写真や歌舞伎等を興行していたこと。その後大正にはいり春喜座、昭和に入り美瑛館が開設されたことなど。
上富良野町	「上富良野町史」(S42) 451：・明治40年にはじめて開設された田村座、再建された共楽座などについて。 「上富良野百年史」(H10) 470：・田村座、共楽座の事情について、「旧村史原稿」、「上富良野志」、「上富良野町史」、「北海タイムス」等の記述を紹介。702：・「上富良野町史」の市街図から、昭和11年ごろにあった永楽座を読み取る。
中富良野町	「中富良野町史」(S61) 1049-1050：・明治33～34年ごろ、同好者が集まり歌舞伎芝居をはじめたこと。・大正11年、青年たちが愛友会を結成し、西中の祭典や市街の劇場等で上演したことなど。
南富良野町	「南富良野町史 下巻」(H3) 249：・明治40年に金山に個人による劇場が開設され、芝居や連鎖劇がおこなわれていたこと。大正12～13年ごろ、富士製紙株式会社がダイヤモンド座を開設したことなど。（「南富良野村史」参照）
占冠村	「占冠村史」(S38) 425：・村中央において、明治42年、個人宅に旅の役者が連れてこられたこと。・大正11年、青年による占冠中央演劇研究会ができたこと。427：・大正9年、個人の倉庫に座敷をつけ、劇場としたこと。
和寒町	「和寒町史」(S50) 582：・大正2年6月、吉岡与七らによって和寒座が開設されたことなど。また大正10年には末広座劇場が開設されたことなど。 「和寒町百年史」(H12) 935：・上とほぼ同じ内容。

剣淵町	「剣淵町史」(S54) 1206-1207：・昭和3年、個人が自分の倉庫を改造し、七七座を開設したことなど。
下川町	記録なし
美深町	記録なし
音威子府村	「音威子府村史」(S51) 645：大正末から昭和8年頃まで市街に常盤座があり、活動写真、浪曲、芝居が上映・上演されていたこと。
中川町	記録なし

○網走支庁	
北見市	「北見市史(下)」(S58) 297-301：・明治30年代、野付牛中央尋常小学校や、旗亭市川亭に抱えられた芸者たちから演芸、歌舞遊芸が広まったとする推測。 ・大正5年、個人所有の芝居小屋「北盛座」が町有志に買い取られ、「北見劇場」として開業したことなど。 ・大正11年の野付牛中学校開校以来、教師たちによって文芸活動が盛んになったことなど。 623-624：・昭和18年頃の、婦人会による軍人劇について。
端野町 (H18.3.5 北見市へ)	「新端野町史」(H10) 1086-1087：・明治34年、岐阜出身の屯田兵が練兵場で素人芝居を上演した記録などを紹介。 ・青年たちによる若連中(青年会)の結成と、祭りの余興としての剣舞や芝居がおこなわれたことなど。
留辺蘂町 (H18.3.5 北見市へ)	記録なし
常呂町 (H18.3.5 北見市へ)	記録なし
網走市	記録なし
紋別市	「新紋別市史」(S54) 1034-1035：・青年団の演芸会が各地で意欲的に催されたこと(時期不明)。
女満別町 (H18.3.31 大空町へ)	「女満別町史」(S44) 685：・大正初期に青年団が主体となり、歌舞伎や新劇を祭りや会合時に披露したこと。 ・大正8年女満別座が開設され、歌舞伎・芝居が上演されたこと。
東藻琴村 (H18.3.31 大空町へ)	「東藻琴村史」(S47) 536-537：・大正期に淡路出身者によって歌舞伎芝居が催されて評判を呼び、各地に呼ばれたこと。 ・大正3年、個人が芝居小屋を建て、後にいくつかの経営者の手を経て、昭和16年東藻琴劇場となり、映画を中心に月に二十数回興行していたこと。 「東藻琴村史 第二巻」(H11) 314-315：前掲書とほぼ同じ内容。
美幌町	記録なし
津別町	「新訂津別町史」(S46) 964-966：・大正初期に初めて開設された芝居小屋が一広座、新富座と改称されていったこと。また大正15年に文明座が開設されたことなど。 ・芝居や歌舞伎はドサ廻りによるものがほとんどであったこと。 ・昭和2年、本岐市街に共栄座が開設されたこと。 「津別町百年史」(S60) 295-297：・前記内容に加え、大正13年頃、相生市街に民家を改造した相生座が建てられ、月一度程度芝居、活動写真、浪花節などを上演したことなど。
斜里町	記録なし

市町村史に見る北海道の演劇活動の記録

清里町	「清里町百年史」(H10) 140-141：・神社の祭典に旅回り役者や芸人一座が巡業し、それ以降の大正10年頃、活動写真の出張上映がおこなわれるようになったこと。・昭和初期に電灯がつくと、芝居や活動写真の興行場が誕生したことなど (S5年上斜里劇場, S8年札鶴劇場)。
小清水町	「小清水町百年史」(S56) 1051-1052：大正5年に初めて小清水亭(のち劇場小清水座)が開業したことなど。 「新小清水町史」(H12) 661-662：前掲書とほぼ同じ内容。
訓子府町	「訓子府町史」(S42) 966-967：大正2年、仮興行の芝居小屋が初めて建てられ、田舎まわりの芝居で繁盛したこと。のちに場所を変え、共楽座、訓子府座と称されるようになったこと。
置戸町	「置戸町史(上)」(S60) 890-894：・大正4年2月5日付「北海タイムス」の記事を引いて、置戸座で「置戸演武大会」がおこなわれたことなど。・大正14年発行の「置戸村誌」にある置戸座の記述を引用。
佐呂間町	記録なし
遠軽町	記録なし
生田原町 (H15.10.1 遠軽町へ)	「生田原町史」(S56) 916-917：大正年代に開設された生田原座、大黒座、安国劇場、昭和13年に北ノ王鉱山の従業員の娯楽場として開設された北ノ王会館について。 「続生田原町史」(H9) 193：前記とほぼ同内容。
丸瀬布町 (H15.10.1 遠軽町へ)	記録なし
白滝村 (H15.10.1 遠軽町へ)	「白滝村史」(S46) 440：昭和4年、石北線の全線開通を見込んで、白滝駅付近に劇場が建設されるも、同9年、丸瀬布に移転したことなど。
上湧別町	「上湧別町史」(S43) 1401-1404：・開拓期に、ある屯田兵の父が若者を兵屋に集め、歌舞伎を教えたことや、それ以後、氏神祭典の余興に神社境内で講演されるようになったこと。証言も引用。・後に大正元年、大正座が開設され、劇場興行がおこなわれるようになったこと。・大正4年に開設された中湧別座について、大正7年9月15日付「北見時報」の記事を引用。回転式(一部)舞台があったことなど。・明治、大正時代にこの地方で上演されたものはもっぱら芝居で、映画上映は昭和初期からが盛んであったことなど。(引用、証言は他に比べて比較的多い)
湧別町	「湧別町史」(S40) 670-673：・明治41年頃バラック式の芝居小屋が建てられ、地方回りの旅役者の演芸、素人による演芸会などがおこなわれていた。・明治43年湧別座が開設される(大正5年の鉄道開通とともに湧別駅前に移転)。常時満員のため増築。舞台装置を回転式に。・芭露、上芭露での興行師や劇団による興行(詳しい時期不明)。 「湧別町百年史」(S57) 1256-1257：大正中期、青年団による祭典余興の青年演劇(証言付)。1289-1292：「町史」の記述を若干詳しく説明。
滝上町	記録なし
興部町	「興部町百年史」(H5) 1196-1197：・大正年代末に開業した興盛座について。・大正14年に開業した沙流劇場について。
西興部村	記録なし

雄武町	記録なし
○十勝支庁	
帯広市	<p>「帯広市史」(S51) 721-723：・明治38年，旅順港陥落記念に恤兵金募集のための素人芝居が朝倉座でおこなわれたこと（歌舞伎，壮士芝居，芸者芝居）。</p> <p>・同39年3月25日，十勝青年会が東北三県窮民援助のための慈善演劇会を開催。大切りは伏古村アイヌの伝説を脚色したものであったこと。・同39年3月下旬もしくは4月はじめ，売買村別府団体が獅子舞と歌舞伎芝居を上演。以後別府部落では毎年秋祭に歌舞伎を上演（別府獅子連中）。近隣の祭礼や帯広町栄楽座のこけらおとしなどにも招かれたことなど（演者名，出し物名，証言などあり）。昭和10年ごろまで続く。・明治41年，聖公会主催の慈善興行。・明治末～大正初年に，義士会主催の義士劇が年中行事になったことなど。</p> <p>「帯広市史」(S59) 915-917：前掲書とほぼ同内容。</p> <p>「帯広市史」(H15) 1010-1013：戦前の状況については「市史」(S51) とほぼ同内容。</p>
音更町	<p>「音更町史」(S36) 561-563：開拓初期の頃，青壮年同好者を中心に演劇グループが作られ，秋の祭りにすべて自らの手により演じられたこと。</p> <p>「音更町史」(S55) 767-768：前掲書とほぼ同じ内容。817：最初の劇場は大正4年の松嶋座であること。</p> <p>「音更町百年史」(H14) 417-418：「音更町史」(S36) の内容に加えて，いくつかの青年団体の動き。（「東土狩百年史」参照）</p>
士幌町	記録なし
上士幌町	記録なし
鹿追町	記録なし
新得町	<p>「新得町史」(H2) 70, 770-772：・旅役者の手記によると，明治43年5月に乾咲次郎一座が2～3日芝居をおこなった（場所不明）。・大正5年ごろ新盛座，大正12年新得座が開設され，東京歌舞伎を招いたこと。・大正12年，若原座が設立されたこと。</p> <p>「新得町百年史」(H12) 75-76, 834-837：・前書とほぼ同じ内容。</p>
清水町	<p>「清水町史」(S57) 437：・明治43年，香川県人小谷源太郎らにより芝居小屋が建てられ，壮士芝居，歌舞伎，人形芝居が公演されたこと（谷本カツノの手記による）。大正5年に兵庫座が開設され，同15年，清水座と改称したことなど。</p> <p>「御影村史」（前書に合本）917-920：・明治34年に阿波より入植した安宅親子とその親族を中心に，その同好者が集い，郷里の阿波歌舞伎が昭和初期まで演じられて評判となり（安宅芝居），他村にも巡業したこと。・大正末期に有志の共同出資により共栄座が開設され，旅回りの芝居，映画，浪曲等が上演されたこと。</p>
芽室町	<p>「芽室町五十年史」(S27) 553：・大正2年，有志により芽室座が開設。地方巡業の新・旧劇，浪曲などが上演されたことなど。</p>
中札内村	記録なし
更別村	<p>「更別村史」(S47) 108-109：大正15年，広島団体の一員として入地した春日作二郎（竹本仲太夫）を中心に芝居（春日歌舞伎）がはじまる。地元や各地の祭礼に呼ばれる。</p>



市町村史に見る北海道の演劇活動の記録

幕別町	「幕別町史」(S42) 826-828：・明治の終わりごろ、楠座が開設されたこと。 ・昭和12年ごろ、商店の有志が素人芝居を演じ、写真に撮り、出征兵士の慰問袋の中に入れたこと。 ・昭和16年、新田診療所に着任した医師有田博らによって、新田演劇部が結成されたことなど。 「幕別町百年史」(H8) 1087-1090：・前書とほぼ同じ内容。
忠類村 (H18.02.06 幕別町へ)	記録なし
大樹町	記録なし
広尾町	記録なし
池田町	「池田町史(下)」(H元) 406：明治32、35年の地方税収入の中に演劇税納入の事実があったこと。また同36年には俳優税納入があったことから、利別太に芝居小屋があり、専属俳優がいたこと(利別座)。のち旭座となり、沢田正二郎らの公演がおこなわれたこと(大正3年11月以降)。
豊頃町	「豊頃町史」(S46) 1134-1135：・大正末期、茂岩に倉庫を利用して映画館らしきものができ、映画、芝居、浪曲、政治演説、素人演芸会等が催されたことなど。
本別町	「本別町生活文化誌」(H14) 816-820：・徳島からの移住者たちによる勇足歌舞伎について、証言を多数引用して紹介。
足寄町	記録なし
陸別町	「陸別町史 通史編」(H6) 723-725：・大正4年に公会堂や共栄座が開設され、住民の娯楽に供した。これらの活動には、青年会等の協力があつたことなど。
浦幌町	記録なし

○釧路支庁	
釧路市	「新釧路市史 第三巻」(S47) 191：・明治41年2月、薩摩琵琶の名士有馬正彦の来釧の件が「釧路新聞」に「悲壮哀婉の調」と題して記事になっていること。 ・明治43年、「釧路新聞」の連載小説が大黒座で上演されたこと。「釧路の美術・演劇」(釧路叢書第二〇巻)参照。
阿寒町 (H17.10.11 釧路市へ)	記録なし
音別町 (H17.10.11 釧路市へ)	「音別町史」(S60) 873-874：大正初期に栄楽座が開設されたことなど。
釧路町	記録なし
厚岸町	「厚岸町史(下)」(S50) 42-45：明治35年の「劇場開設願」(寿座)の写し。同37年の「釧路新聞」に同座での有志演芸会等がおこなわれた記録があることなど。またその後の改築や来館上演者についてなど。
浜中町	記録なし

標茶町	「標茶町史」(H14) 462-463：・明治30年以前（詳細不明）に個人が建設した小屋に端を発する川上座について。昭和8年10月19日付「北海道新聞」の同座での青年団による弁論大会の記事について。・昭和10年に建設された標茶劇場について。
弟子屈町	記録なし
鶴居村	記録なし
白糠町	記録なし

○根室支庁	
根室市	記録なし
別海町	記録なし
中標津町	記録なし
標津町	記録なし
羅臼町	記録なし